

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 オールスタッフ
公演団体名	ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ

内容
<p>内容は「五十音村の住人になっちゃおう！」というものです。ミュージカルには必要不可欠な歌・ダンス・芝居があり、もちろん全てに挑戦してもらう予定ですが、何より楽しく演じる事を目標とします。五十音の文字を意識して、各々が参加場面を講師と共に考えながら、文字が連なり言葉を作っていくことをイメージしていきます。歌やダンスという楽しみ方だけでなく、参加する生徒さんが、一つの意味のある場面を作り出していく面白さを伝えます。その学校の生徒たちによるオリジナルの世界感が重要です。</p> <p>但し、現在の各学校の音楽等の授業における対応に習い、状況により、歌唱をなしにするなど、各学校へ確認を行い対応いたします。また、できる限り講師、参加する生徒さん共にマスクの着用をいたしますが、熱中症の危険がある状況の場合には、ダンス時はより十分な距離をとる事でマスクの代替え対応といたします。</p> <p>今回事前ワークショップはお互いにマスクを着用し行うため、コミュニケーションがとりにくくなるため、段取り説明が少なくなるように振付を従来のものから変更します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 講師の紹介・作品説明・講師によるパフォーマンス2 コミュニケーションを促進するために身体を動かしながらウォーミングアップ3 ミュージカルナンバーを歌ってみる。歌詞を理解しながら読んでみる。4 振付 五十音村の住人になって踊ってみる。楽しく体を使おう！5 ステージング フォーメーションを覚えながら、チームワークで場面を作る6 まとめ「小さい“つ”が消えた日」の作品から汲み取れるメッセージ説明、五十音村の一文字になるためのアドバイス、当日への準備他 <p>ワークショップの一番の目的は、参加者が心を開く事、作品のテーマを考える事です。講師が子供たちとコミュニケーションを取りながら、彼らが表現をしやすいワークショップ環境を作り、五十音村の住人を演じる事で、主人公の小さい“つ”やその他の文字たちが今何を考えているのか、感じていることを共有し、それに伴った演じ方を考える事で作品のテーマに沿うように導きます。更にはプロのミュージカル俳優と一緒に出演することによって、新しい自分を発見し、また、表現する事で、自分たちの考えたメッセージが観客に伝わるという事を、実感して欲しいと考えています。</p>

タイムスケジュール（標準）

- ワークショップ 45分前に学校入り
 - ・ ヒモでの場ミリ、児童の立ち位置確認
 - ・ 机、イスにてセットに見立てセッティング
 - ・ 担当の先生と欠席状況、服装、集合時間、ビデオ撮影、などの確認
 - ・ 音響、マイク確認
 - ・ 講師アップ、リハーサル
 - 講師紹介・ワークショップの流れ・本作品の紹介 約10分間
 - パフォーマンス 約5分間
 - インプロヴィゼーション（五十音村の住人になってコミュニケーション） 約5分間
 - 歌稽古 約10分間
 - 振付 約20分間
 - 休憩 約10分間
 - 舞台の注意点を説明した後ステージング 約30分間
- まとめ 本番に向けての準備、五十音村の住人になる為のアドバイス、etc 約10分

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

講師 5名

（指導責任者1名、歌唱指導1名、ダンス指導2名、企画・進行・音響1名）

学校における事前指導

事前に譜面と音源をお渡しします。歌をマスターするという事ではなく、音楽の授業やホームルームなどで繰り返し聴いたり、歌入りの音源を流しながら、歌ってみる事をお願いしています。

また、ワークショップ終了後、本番に向けての練習の時間を作っていただけるようお願いしています。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 オールスタッフ
公演団体名	ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ

演目
ミュージカル「小さい“つ”が消えた日」 原作：ステファノ・フォン・ロー（三修社刊） 脚本・作詞・演出：前嶋のの 音楽：大竹創作 美術：根来美咲（青年座） 人形美術・製作：鹿島佳子、高椋士門（木ぐつの木） 振付：三枝宏次 歌唱指導：坂口阿紀 衣裳：天野桃子 照明：千田実（千田オフィス） 音響：返町吉保（キャンビット） 舞台監督：岩戸堅一（アートシーン） 公演時間：95分（休憩なし） 本作品の原作をイッツフォーリーズが、劇団企画公演としてミュージカル化、2013年に初演を迎え、その後、何度かの再演を経て、多くの子ども劇場やファミリー向けの鑑賞行事として、上演して来た作品です。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
合計 14名 キャスト 5名（中年ステファノ・おじいさん・“こ”さん・“そ”さん、少年ステファノ・小さい“つ”さん・“た”さん・“き”さん、“し”さん・“な”さん・“み”さん、“あ”さん・“か”さん・“つ”さん） スタッフ 9名（舞台監督1名、舞台監督助手2名、音響2名、照明2名、舞台進行1名、ドライバー1名）

タイムスケジュール（標準）
7:45 キャスト・スタッフ到着 8:00 搬入開始 8:30 照明・大道具仕込み 9:00 音響・楽屋作り 10:30 照明・音響調整 11:00 劇団リハーサル 12:00 生徒参加リハーサル（1時間） 13:40 開場 14:00 開演（上演時間1時間35分・休憩なし） 15:40 撤収作業 17:40 退校予定

実施校への協力依頼人員
朝8時より1時間、終演後1時間の大道具、小道具、照明、音響機材、などの搬入、搬出のお手伝いを、感染対策のため学校側から希望があった場合をお願いしています。舞台の仕組みを説明しながら、楽しく一緒に作業します。 生徒さんに関しては自分が運んだセットの一部が本番でどのように使われているのかも楽しみの一つとなります。 但し、感染対策として必ずマスク・軍手をご自身で用意、着用をお願いしています。

演目解説

〈作品について〉

本作品の原作者、ステファノ・フォン・ローは、1976年ドイツ・クローンベルク生まれ。1987年来日し、上智大学比較文学部比較文学科を首席で卒業。その後、ケンブリッジ大学、ハーバード大学、東京大学で、経済学、哲学、社会学などを修めました。日本語・ドイツ語・英語・フランス語・イタリア語を堪能に使いこなし、現在は、フランクフルトの日系証券会社に勤務し、ドイツ・ケーニヒシュタインに在住しています。その語学堪能の彼が、日本語の五十音を登場人物として、日本語で物語を書いたものです。五十音の文字たちが擬人化され、五十音村の登場人物としてお話が展開されます。一つ一つの文字の大切さをユーモアと優しさを込めて描かれた物語は、子どもだけでなく、大人へのメッセージも込められた作品です。

〈あらすじ〉

文字にもたましいが宿っています。五十音村の住人は今日も元気に仕事をしています。自信家の“あ”さん、笑っぱなしの“は”さん、歌の大好きな“う”さん、頼りがいのある“た”さんに、資産家の“し”さん。それぞれの個性豊かな文字たちが自慢話を始めていると、無口な小さい“つ”の話になり、音がない小さい“つ”は文字ではない、とみんなにばかにされてしまいました。小さい“つ”は、悲しい気持ちになり、家を飛び出してしまう。そこでひとりぼっちになった小さい“つ”が出会ったものは…。 “き・み・が・ひ・つ・よ・う”心が傷ついたとき、そのようなメッセージが届いたら、あなたはどうしますか？

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

〈参加方法〉

- 1 第1幕、開演して約15分後、五十音村の文字の紹介のシーンで、五十音の一員として出演してもらいます。(参加児童数・約20名・歌・ダンス・芝居)これから始まる物語をイメージさせるショーナンバーです。
- 2 第2幕、物語の最後で盛り上がる、五十音の文字全員が温泉に行くシーンに、五十音村の一員として出演してもらいます。(参加児童数・約30名・歌・ダンス)明るく楽しいショーナンバーです
- 3 カーテンコール、劇団出演者と一緒に、2シーンに出演した全員で、観てくれた仲間へ感謝の気持ちを込めてのおじぎと「♪おかえり」というテーマ曲を歌います。

〈参加させるための工夫〉

彼らの出来る事、望んでいる事に合わせ、動きを調整し、とにかく表現することを楽しんでもらうようにする。音楽は、子どもたちの感性を刺激するものであることから、彼らとその音楽を楽しみ、何かを表現したいと思うように指導する。(特別支援学校に関しては事前の打ち合わせがかなり必要だと思いますので、子どもたちの情報や、授業の現状を事前に理解できるよう、学校と密にコミュニケーションを取っています。)数少ない観劇の機会を丁寧に作ってあげたいと考えます。

また、感染対策として生徒さんにはマスク着用をお願いし、キャストにおいては、生徒さんから適切な距離を取って発声、指導をします。

児童生徒とのふれあい

事前ワークショップに伺った際に、単に講師という立場ではなく、一緒に舞台を創る出演者として、個々の児童と向き合い、お互いの想像力を働かせながら、ワークショップを行います。また、当日の最終リハーサルでは、すぐ横にいる、役柄になりきった俳優たちの演技を目の当たりにすることで、期待感が高まります。この期待感はおのずと生徒全体の鑑賞へのエネルギーへと変化していきます。これがまさに参加型公演の醍醐味です。これとは別に大道具、小道具、機材等の搬入、搬出を児童、先生と一緒にを行うことにより、舞台参加以外でも学校の皆さんとのコミュニケーションを積極的にはかろうと思っています。

この公演が終わった後にも、皆さんがミュージカルに大いなる興味を持ってもらえるよう努めます。

今回事前ワークショップはお互いにマスクを着用し行うため、コミュニケーションがとりにくくなるため、段取り説明が少なくなるように振付を従来のものから変更します。